

第2回広島県肝疾患診療連携拠点病院研修会 開催報告

開催日時 2026年3月7日（土） 14:00~16:00

司会 柘植 雅貴（広島大学病院 肝疾患センター 教授/肝疾患相談室 室長）

【第1部】広島県肝疾患診療連携拠点病院年度報告

藪下 和久（福山市民病院 医療技術部次長 内科科長）
村上 英介（広島大学病院 消化器内科 講師）

広島県における肝疾患対策の最新状況

井居 萌（広島県健康福祉局薬務課 肝炎対策グループ）

【第2部】脂肪肝診療における多職種連携

「脂肪肝における多職種連携～みんなで治そう脂肪肝～」

講師：村上 英介（広島大学病院 消化器内科 講師）

「肝疾患（脂肪肝など）におけるリハビリテーションの重要性について」

講師：越智 光宏（広島大学病院 急性期リハビリテーション地域連携研究講座 准教授）

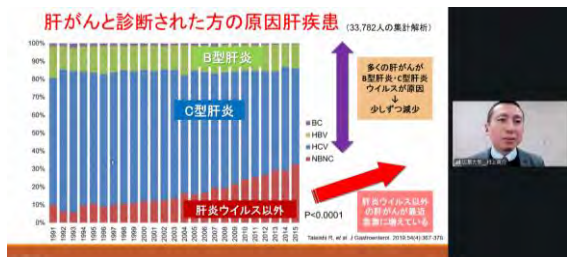
「脂肪肝の栄養療法のポイント～肝疾患病態栄養専門管理栄養士としての取り組み～」

講師：長尾 晶子（広島大学病院 栄養管理部 管理栄養士）

講義内容について

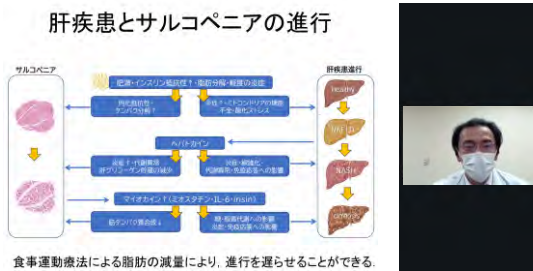


「脂肪肝における多職種連携」



脂肪肝（MASLD）の増加傾向と病態について、統計データやイラストを交えわかりやすく解説していただきました。近年の診断概念の変遷（NAFLD→MASLD）や治療の基本となる食事・運動療法において、医師・栄養士・理学療法士・薬剤師が連携する多職種チーム医療の重要性を強調されていた点が印象的でした。また、多職種が連携して関わったからこそ減量が達成できた高度肥満症例を提示していただき、多職種で介入する意義を考えさせられる内容でした。

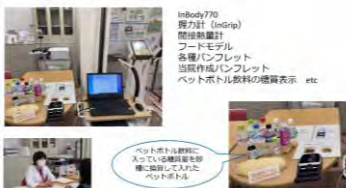
「肝疾患（脂肪肝など）におけるリハビリテーションの重要性について」



脂肪肝とサルコペニアの関連や、有酸素運動と筋力トレーニングを組み合わせた運動療法の具体的な方法、頻度・強度の目安について、わかりやすくご説明いただきました。運動時間の確保が難しい人に向けた日常生活での身体活動量の増やし方や、座ったまま・寝たままでも行える筋トレもご紹介いただき、明日から臨床で活かすことができる内容でした。また、患者さんの身体機能に合わせた継続的な運動支援の重要性を強調されていた点が印象的でした。

「脂肪肝の栄養療法のポイント」

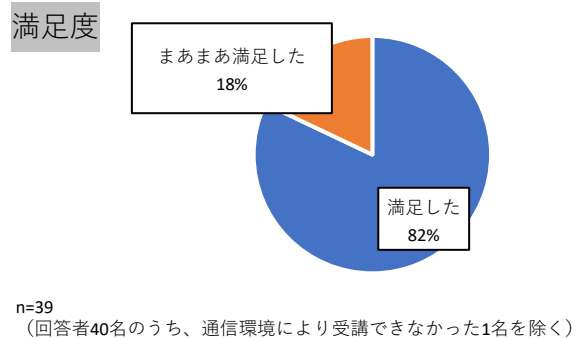
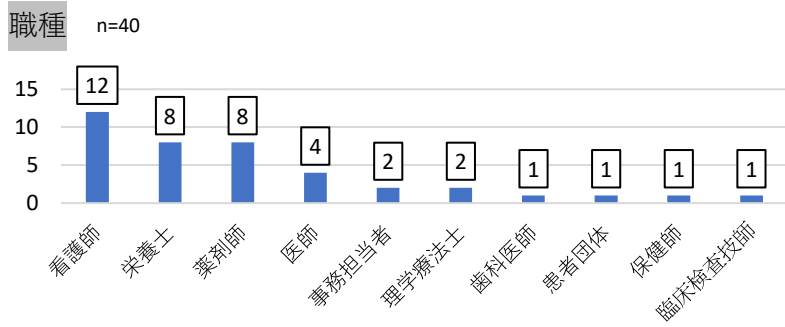
栄養指導時の工夫



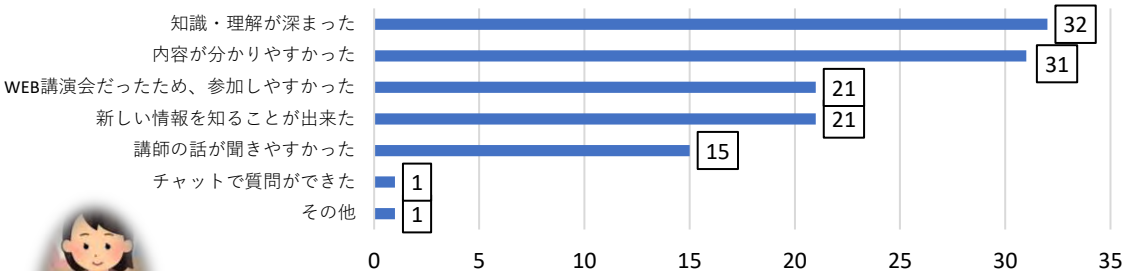
筋肉量や握力、実際の量など見える化することで、アドヒアランスにも繋がる



肝疾患病態栄養専門管理栄養士の視点から、脂肪肝は「改善可能な疾患」として解説され、患者さんの行動変容を促す具体的な手法が示されました。栄養指導の核として、単に制限ではなく、果糖の過剰摂取防止と5%の減量にあるとのことでした。特に清涼飲料水の糖質を砂糖の現物で示すことや、筋肉量評価などを併用した動機付け面接を行うことが極めて有効であると解説いただきました。

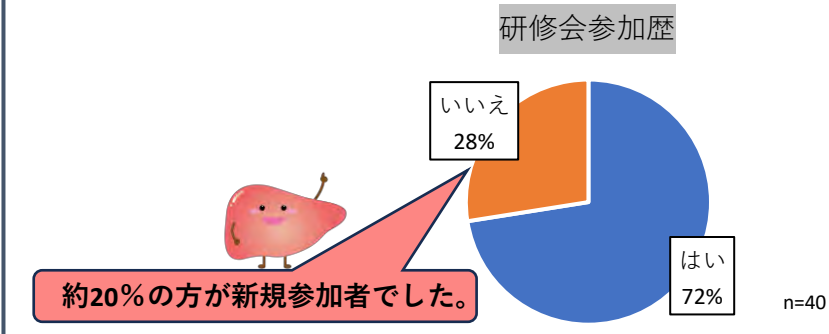
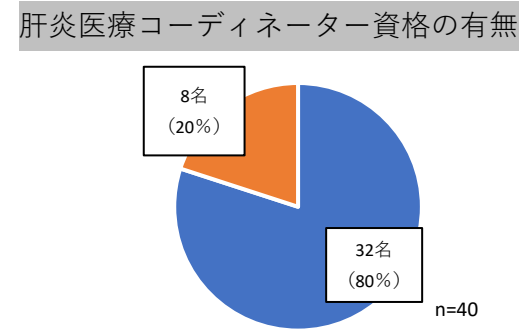


満足度の理由 n=122 (複数回答)
(回答者40名のうち、通信環境により受講できなかった1名を除く)



参加者の声 (アンケートより抜粋)

「漠然としていたことが明らかになった」
 「明日からの患者指導にすぐ活用できる具格的な内容だった」
 「Web開催のため遠方からも参加しやすかった」



まとめ

知見の深化と最新情報の共有

「知識・理解が深まった」「新しい情報を知ることができた」との回答が多数を占めました。各専門職の視点から語られた最新の知見や臨床アプローチが、現場のニーズに合致していたことが伺えます。

実践的な学びと多職種連携

患者の行動変容を促すための「具体的な指導法」や、チーム医療における「多職種連携の重要性」を再認識する機会となり、すぐに臨床に活かせる実践的な学びの場となりました。

新規参加者と継続意欲

今回、リピーターに加え新規参加者が11名(管理栄養士6名、理学療法士2名、看護師2名、歯科医師1名)と、幅広い専門職の関心を集めるテーマであったことがうかがえます。さらに、最終的に全参加者が今後の継続参加を希望されており、本研修会への期待の高さが示されました。

次年度も現場の課題に即したテーマを通じて、地域の肝疾患診療の質向上と連携強化に努めてまいります。

